

令和7年度藤枝西高等学校第2回学校運営協議会議事録

1 日 時 令和7年10月27日（木） 午後2時から4時

2 場 所 藤枝西高等学校 会議室

3 参加者

会長	鈴木 尚夫	学校の運営に資する活動の経験者
副会長	高橋 等	学識経験者
委員	木村 功	地域住民
委員	福興しほり	保護者
委員	伊東 邦雄	その他
委員	松本真由美	その他

校長（竹村）、副校長（和田）、教頭（平林）、事務長（新美）、総務・図書課長（小澤）

教務・情報課長（平井）、生徒・保健課長（東）、進路・探究課長（藤田）

4 内 容 司会：副校長（協議の進行は会長）

（1）校長挨拶

- ・9月の一日体験入学は、多数の来場者にお越し頂いた。があり、11月8日に2回目を行う。
- ・体育祭は、暑さも危惧されたが、安全に実施できた。近隣の幼稚園との交流も含め、盛況だった。
- ・県立高校の在り方に係る地域協議会が現在行われており、志太榛原地区のグランドデザインを現在検討中である。

（2）学校経営計画に基づいた学校運営の進捗状況（各分掌より）

ア 教務・情報課

主体的に学習に取り組む生徒を増やすために、アンケートを取って学習状況を分析中である。また、暗記中心の学習法から、考えていく学習法へ転換していくために、ガイダンス等をしていきたいと考えている。

ICT利用については、生成AIやロイロノートについて教員向けの研修を実施している。ただし、教室のプロジェクターの整備から年数が経過し故障が目立つようになってきた。修理部品保管期間が9月に終了し、修理不可能になった。現在2台が使用不可だが、予算不足のため交換対応できていない状況である。

イ 生徒・保健課

児童生徒自身が、自発的・主体的に自らを成長・発達させる過程を支える、「発達支持的生徒指導」を目指している。生徒に対する言葉遣いや授業のユニバーサルデザイン化の教員研修を行い、特別支援的配慮などを学んだ。コミュニティ・スクール事業では、生徒が地域の一員として活躍している。

ウ 進路・探究課

【入試の多様化】全国的に年内入試にシフトしているため、受験倍率が従来よりも上昇。一人一人の進路実現を図るため、オープンスクールなどの情報を掲示板に掲示するとともに、Cラーニングで生徒・保護者に配信している。

【ワークショップの開催】夏に講師を呼び、リーダーシップ等の非認知能力に関するワークショップを実施した。

【総合的な探究の時間】1年生では個人探究として、各自が問い合わせを設定し、仮説を立て、検証し、その結果をスライドを作成し発表している。2年ではさらに個人探究を深化させ、論文を作成。3年生では個人探究のクラス代表者を決め、発表会等を行っている。今後の課題として、生徒が地域に出ていくことも考えている。

エ 総務・図書課

PTAは来年度、指導者研修会の志太榛原地区主幹校、テレビ寺子屋の担当になる。図書担当として、朝読書に取り組んでいます。本に親しむ中で、読書が定着していくことを願う。

(3) 協議・意見交換（学校運営の進捗状況について）

- A : 生徒の情報リテラシーに関して、飲食店などでSNSを通して炎上している話を聞くが、高校では大丈夫か。
- 学校 : 現在の高校生はコロナ下を経験して、デジタル機器に対して中学時代から親しんでいるが、SNSを介しての課題がある。そのため、新入生にはスマートフォンやSNS等の使い方について、警察等にお願いして、講習を行っている。
- B : 探究などの授業で視野を広げることが大事。日知塾でも生徒が小学生の帰国子女とかかわることでよい刺激を受けていた。また、地域に出て、いろいろな人と触れ合う機会が重要。生徒も企画者として参加して、地域の役割を担うことが期待される。
- C : クレジットカードを狙った詐欺など、日常生活の中で危険が多い。ChatGPTなどの生成AIの使い方なども教えてくれると保護者として安心できる。
- D : 地域の活動でいろいろな人と付き合う、触れ合うことには意味がある。学校づくりのなかで生徒の果たす役割は何か考えたい。情報スキルはリテラシーとのバランスが大切。探究学習で集めた情報を構造化させているのは大事なことだ。

(4) 協議・意見交換（学校運営の課題について）

- 学校 : 給特法改正により、時間外勤務の削減が求められているが、時間外勤務が40時間を超える教員は16名おり、部活動の正顧問が多くを占めている実態がある。外部の方にも部活動指導の補助をお願いしている。そのうち、県費で3名入っている部活動指導員だけは単独指導が可能で、月平均10時間以上の正顧問の時間外勤務の削減につながっている。
- A : 現代の生徒は「勝利のみを追求する」よりも、バランスを重視する傾向にあり、それは時代にあってはいるかもしれない。部活動を通じて経験する理不尽さや困難を乗り越える経験が、生徒の精神的な成長に不可欠。特に、コロナ禍や国際情勢の不安定化といった予測不能な危機的状況において、物事に「耐え抜く力」や精神的な「強さ」を育む上で、部活動が重要な役割を担っている。また、変化する自然の中で行われる体験活動も有用ではないか。
- B : 部活を楽しみに学校に来ている生徒も一定数存在する。保護者として、顧問の先生に休日まで部活動の指導をしていただき、感謝する一方、負担をかけることを申し訳なく思う気持ちもあり、葛藤がある。先生には試合には来てほしいが、部活指導員の増員がされ、休める機会が増えれば、保護者としての引け目が少なくなる。
- C : かつて学校の管理職をやっていたとき、年度末には、次年度の部活動顧問の配置（特に人気競技）に大変な労力を要した。試合の勝敗によっては監督が保護者から厳しいプレッシャーを受けるなど、顧問の精神的負担は大きい。
- D : 大学では、部活動の悩みを顧問に直接相談しにくい生徒のために、相談員を拡充している。高校でも指導者とは異なる視点からのケアが生徒の精神的な安定に繋がるのでは。また、会議の議事録をAIが自動で要約するなど、テクノロジーを活用して事務的な作業を効率化し、指導者の負担を軽くする取り組みもしている。いくらでも働きたい人もいるが、タイムカードの導入により労働時間を可視化し、教職員の意識改革を促す試みもされている。
- C : (時間外勤務が多い教員) 半分の8名ぐらいは部活動指導員が配置されたらよい。
- E : 部活動は学校教育の場において数少ない「異年齢集団」での交流機会。学年を超えた人間関係の中で、先輩が後輩を指導し、後輩が先輩に感謝するといった経験を通じて、卒業後の実社会で不可欠となる対人能力を養うことができる。この人間関係の構築や部活内のマネジメントといった側面は、技術指導を主とする外部指導員だけでは代替が難しく、教育の核心部分だ。教員の犠牲もあるが、大事な部分を失わないようにしたい。
- F : 中学校では週2～3日の部活動になってきている。（部活縮小で子供たちが）空いた時間を有意義に使ってくれているといいなと思っている。